

## ヒトエグサ人工採苗試験

近藤 忍

### 1. 要約

4月下旬にヒトエグサの接合子を採取し、培地の投入、人工光の照射及び雑藻の駆除等行いつつ培養を行った。採取時10ミクロンであった接合子は、9月上旬に45ミクロンに達し、9月下旬から遊走子の放出を試みたが11月中旬ようやく遊走子の放出が観察された。

### 2. 目的

ヒトエグサの人工採苗手法の確立

### 3. 材料及び方法

#### 肥料

ビタミンB12

ノリマックス(前期用)

ノリマックス(後期用)

#### 接合子付け及び培養

中城村地先において採取したヒトエグサを1昼夜冷暗室で乾燥処理した後、殺菌海水を満たした水槽内に投入、9,000 lxの人工光を照射し、ヒトエグサ母藻より接合子を放出させ接合子板に付着させた。

種付けを終わった接合子板は殺菌海水を満たした水槽へ垂下し、人工光(4,000~5,000 lx)を照射し、培地の投入及び淡水処理による雑藻駆除を行いつつ培養した。

### 4. 結果

種付け時約10ミクロンであった接合子は、6

月中旬には約22ミクロン、7月上旬には約30ミクロン、9月上旬には約40ミクロンに達した。9月9日から暗処理を開始し、9月26日、10月2日、10月29日と遊走子放出を試みたがいずれも失敗した。その後、培地の投入を続け遊走子放出を2週間に1回程度試みたところ11月15日ようやく遊走子の放出が見られ、その後数回遊走子放出が観察された。

### 5. 考察

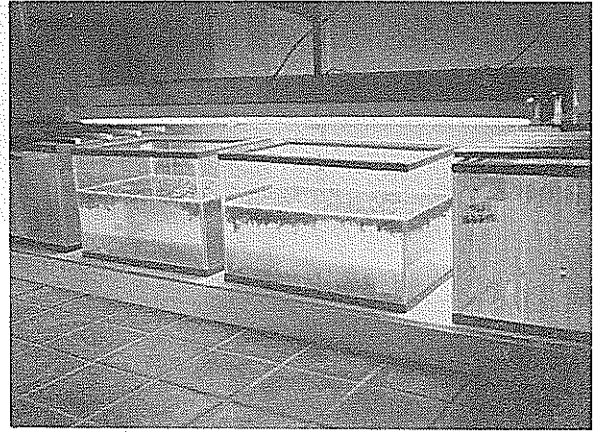
天然採苗によるヒトエグサ養殖は、10月より開始されるので遊走子の放出は10月までに行うのが望ましい。

今回の実験では、遊走子の放出は11月15日以降から見られた。これは接合子を4月から5月にかけて採取されたものを使用したこと又、接合子の成熟を促進させるノリマックス後期用を9月より使用したこと等により、接合子が10月までに十分成熟していないにも関わらず遊走子付けを試みたことによるものであろう。

今後は、接合子の種付けを1~2ヶ月程度早め、十分成熟したものを使って10月に遊走子放出を試みるのが望ましいであろう。なお、例年問題となる雑藻対策については2週間に1度の淡水処理によりよい結果が得られた。



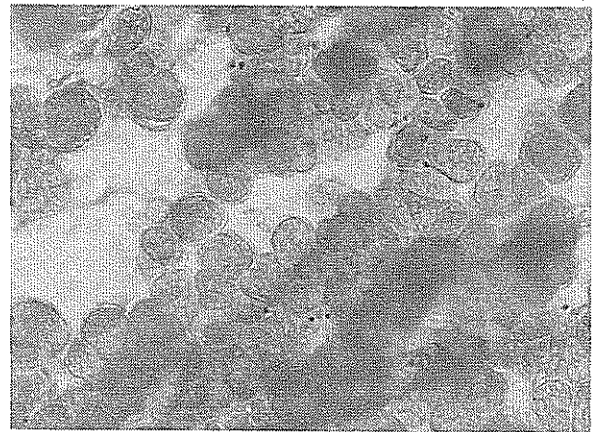
ヒトエグサ母藻採集現場



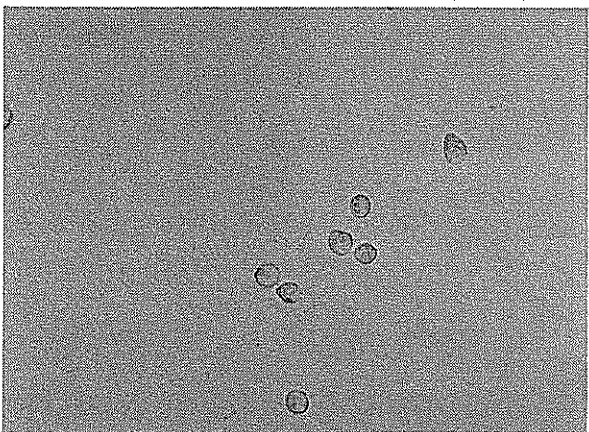
接合子 (約 40 ミクロン)



接合子の放出



接合子から放出された直後の遊走子



接合子の培養